

宮武外骨 みやぶけ 著述家、文化史家。慶應二年一月十八日讃岐國生乳
 附和二十年七月二十八日歿（二六七一―九五五）。初名龜四郎。筆名みややた
 けとぼね、中々尾茂四郎、再生外骨、凹凸亭、凹凸亭兵水、凹凸亭瓢
 生、凹凸亭瓢々、凹凸亭瓢醉人、半狂堂主人、南海道人、宮武凹凸寺、
 宮武彼河、宮武昭、小野村夫、廢姓外骨、廢生外骨、有底益人、村夫
 子、滑稽子、狹貫外史、瓢々、竹上美哉、藏、逸史、骨董雜誌編輯者
 等。夙に個人誌を次々發刊して屢々筆禍に遭ふ。大正十二年吉野作造、
 尾佐竹猛等と明治文化研究會を創設、附和二年東京帝國大學明治新聞
 雜誌文庫主任となる、爾後その充實に専心。

著書『猥褻風俗史』（明治四十四年四月五日大阪・雅俗文庫）、『面
 白半分』（大正六年五月）『日本文武
 堂書店』、『通俗奇聞止答』（高

島平二郎共著、大正七年六月）『
 日本文武堂書店』、『裸（武）なご』

（大正九年一月五日文武堂書店）、

『奇想凡想』（大正九年六月五日

文武堂書店）、『川柳叢書』（一）『川柳や狂句の兒えがた外來語』、（二）

『川柳の百人一首』（大正十二年九月一日半狂堂）、『猥褻と科學』（大

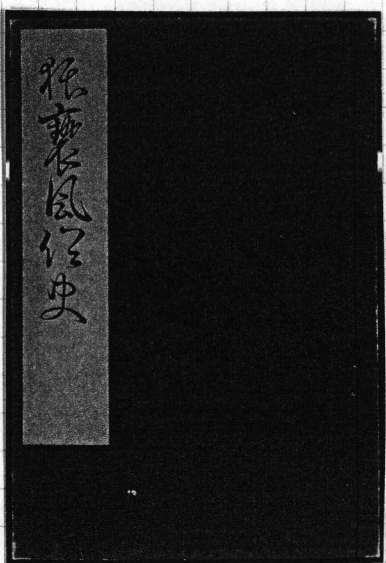
正十二年七月一日）『千五百半狂堂』、『明治表裏叢書』（一）『明治演說

史』（大正十五年四月一日）、（二）『明治演說史』（七月十

五日有限社）、『家性的穢性史』（昭和六年四月五

日大阪・大阪出版社）、『村藩縣制史』（昭和十六

年二月）『千白名取書法』、『幸徳大進事件顛末』（續



昭和二十一年十一月二十五日龍吟社「明治社會主義文獻叢書」(一)「女子
 は危険人物か」(宮武外骨自叙伝)宮武外骨自叙伝(註)
 十日筑摩書房)等。